

第1回：

開催日時：令和7年10月22日（水）午前9時28分～午前10時41分

出席委員：三上委員長、北浦副委員長、卯日、北島、南、野沢、中垣内、
関山各委員

1. 現状分析と課題の共有

委員会冒頭、事務局および委員長より市の人口動態データが提示された。自然動態での出生減に加え、社会動態では20～24歳の若年層、特に女性が近隣の福井市や坂井市へ流出している深刻な実態が報告され、これを踏まえた議論が行われた。

2. 主な協議内容

委員からは、流出抑制と定着に向けた多角的な意見が出された。

教育・ブランド化：市内の優秀な学力データを公表して「教育のまち」としてブランド化する案や、小中学校から地域の産業・課題に触れる探究的な学習を通じ、郷土愛（シビックプライド）を醸成する重要性が強調された。

産業・雇用と住宅：高収入な職場の不足が指摘され、企業誘致とセットで従業員向けの住宅確保を推進すべきとの意見が出た。また、単身者が安心して暮らせる物件の不足や、雪かき等の負担から利便性を求めて都市部へ流出する現状を踏まえ、コンパクトシティ化の検討も課題となった。

長期的視点：10～20年後の市の存続を見据えた「時間軸」の意識や、財政面を考慮した投資の最適化、法人税確保のための戦略的な企業誘致など、現実的な視点の必要性が共有された。

3. 今後の活動方針

今後は月1回の委員会開催を基本とし、各委員が「教育」「企業誘致」「住環境」などの個別テーマを調査・共有する。年内にタイムスケジュールを策定し、モデルケースの検証や行政へのヒアリングを経て、実効性のある具体的な提言を目指す方針を確認した。

人口減少対策査特別委員会（要点筆記）

令和7年10月22日（水）

午前9時28分から午前10時41分

議員 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、中垣内、関山

欠席 室谷議長

遅刻 なし

傍聴 なし

事務局 東局長、吉田補佐

○ 協議事項

（1）今後の活動について

（2）その他

○ 協議事項

（1）今後の活動について

委員長 ご意見をいただきたいが、その前に資料の説明をしたい。ラインワークスにリンクを張っているのを見てほしい。まち・ひと・しごと総合戦略があり、これがあわら市のビジョンであり、福井県にも計画がある。このようなデータをまずは確認してほしい。考える糸口にしてほしい。

行政側でも横断型チームもあり、途中経過の資料がサイドボックスにある。この委員会の参考にするようなもので、現状分析は特に興味深い。自然動態ではあわら市は出生が減り死亡が増えている。社会動態は改善されている。これについては検証する必要がある。どこから入ってきて。どこに出っていくのかという円グラフを見ると福井市、坂井市に対する移動が多い。近場への流出が多い。昨年度の人口対策チームでは、データをみて特に若い女性の転出が多いという結論が出ているのでその辺をどう解決していくのか、と結論付けている。チームとしては市内の人をつなぎ止め、市内に人を呼び込むということを言っている。

市町別人口増減率比較表、20～24歳の増減率が男女ともに高い。

プラスは鯖江市のみ。これを踏まえ考えていかなければならない。

今回、人口減少の今後の活動目標と活動計画について、今日は活動目標について、人口を増やすことにするのか、人口を維持して市民が幸せに暮

らせるようにするのか、どちらもか、を考えるが今日は率直な意見を教えてほしい。

南議員 Uターンができる、増やす施策が必要だと考えていた。各小中学校でふるさと教育がどのように行われているか見てきた。結果、食が良い、人が好いもいいが、働くところを中心に考えないと、高校でもキャリア教育もやっているが、そこにつながるようなこともしていけないといけなく考えている。地元でどのような働く場所があるのかわからず出て行って、地元ですごい企業があることを知らない。企業と連携し企業を市民に知ってもらうことや教育の中でも施策を打っていったらよいと考えている。

卯目議員 22歳から24歳 生まれた時からの過程で教育が抜けていると思う。親の仕事を見る受け継ぐ機会が薄いのでは。全体としてみんなが考えていくべき。どのように伝えていくかが、テーマかな。婚活も変わっていかねばならない。

北島議員 大学別収入ランキングがあって、収入が多い企業が福井にはない。例えば、研究者になるって言ってもそういう企業があわら市にはない。企業誘致。働き方の利便性を求めて町に近づいて行っている。あわら市の人が坂井市や福井市に勤めに行くのを食い止めるため、企業誘致して企業に住宅誘致をしてもらう。優秀なパイをつなぎとめるよりあっさり、企業誘致。

委員長 生活水準は確かに考える。

中垣内議員 身近な大学生など、こちらに帰ってきて安心して暮らせない。帰ってきて一人で住む所がない。楽しくないということをよく聞く。子供を産まないと減っていく。安心して産める体制を作っていくべきと考えた。

北島議員 あわら市の子供たちの学力が優秀なのはわかっている。県は公表しないでほしいと言っているがそれを公表して、教育のまちとして出すと坂井市の人が入ってくるかも。

委員長 深堀をしたほうが良い。

北島議員 前に福井市の明道中学校でなんとか教育を取り入れたら、藤島へ行く生徒が増えた。そうしたら住所を移して転入する子が増えた。それでも人口基準になる。

委員長 教育の魅力化は一つの観点となる。

野沢議員 人口減少は全国的に起きていて、その中であわらから坂井、福井に出ている本質的な原因を紐解いていく必要がある。出ていった人が戻ってきていることはないのか、なんで戻りたくないのか。私たちは市民の声を聴くことが大事な役割だと思うので、その声を拾い紐解く役になり、それを役所に伝え施策に生かすみたいなつなぎ役ができればよいと思う。

関山議員　　私はUターンをやりたい。Uターンしない人の理由で仕事がないとか住む所がないとかあるが一番は地元愛ではないかと思う。地元愛を醸成していくことができればよい。パイの取り合いみたいな話もあったが、都会よりもこちらの方が出産、子育てしやすい。都会より地元で暮らした方が日本全体の人口が増えると思うので、地方に分散することが大事だと思う。

北浦議員　　人口減少対策は市の活力にかかわる。農業も後継者がいない。企業の誘致問題など市政全般で考えていかなければならない。一つ一つ取り上げてみんなでき取り組めばよい。実際に動かすとなると市全体の取り組みになるため、それを考えながら取り組む必要がある。

北島議員　　あわら市は高齢化率が高い。ということは向こう10年で加速度的に人口が減る。生産人口をどうやって増やすかが狙いである。

委員長　　時間軸を意識したほうが良いと考えている。郷土愛やUターンもいいことだが、それが返ってくるのはいつかと考えると10年後、20年後まであわら市が持つのか、という話をしっかりしなければいけない。財政の部分は非常に大きく、それを考えるのが我々ではないかと思っている。高齢化が進むということは生産人口が減るということでそれは統計的に出ている。

南議員　　あわらの教育はどうか。高いならそれを売りにすべき。私も企業誘致はすべきと考えている。市内にすごい技術を持った企業があることを高校生は知らない。郷土愛を育てる教育を、と言われているが、それはどういうことかと疑問を持っていた。故郷が良い、食べ物がおいしいということは当然だが、産業と課題について高校生なら考えられる。自分たちが主体になって考えていけるような探求ができる場がないと、そういう機会を与えないとふるさと愛は生まれてこないと思う。先ほどの企業の話で都会では大手企業から研究所に採用案内が来るとどうしても学生は行ってしまう。でも故郷を体験していなかったら100%（大手に）行ってしまう。故郷を少しでも植え付けていかないと100%戻らないので教育でこども園から高校まで一貫してできる何かがあれば少しは違うと思う。

こどもクラブを見てきたが、地域の教育力はゼロである。夏休みなどは1日クラブで過ごしている。そのため地域の温かさはほぼはぐくまれていない。その辺も地域の温かさをどのように伝えていくか、昔とは違うので。そのことも戻ってこない要因になっているのかもしれないと感じる。

北浦議員　　自分の子も大阪や東京にいる。自分が子育てしているとき、湖に釣りにいったりしたつもりだが、大学行くとそこで就職したりしてしまう。子供の未来を考えると自分の好きなどこにあって頑張ってもらうことが優先するだろうけど。自分の子どもたちは、スポーツ少年団の活動で地域の活動に参加で

きないこともあり、地域で遊んだ思い出がない。子供の時に地域の納涼祭に参加した思い出があると大人になると出てくると思う。20代、30代で戻ってこなくても、定年後に戻る人もいるので南議員がおっしゃったそういうことは大事だと思う。

卯目議員　　どうすれば実現するか、大人が変わらないといけない。学校の成績が良いのも技術的なことで、心の問題は別のことなので、そこをどうやってしたらよいかいつも悩む。解決策は思いつかない。

中垣内議員　　いい大学にいったって、いい企業に行ってしまう。目的がいい企業に就職することになっている仕組みを変えないといけないと思う。あわらに戻ると収入が高いというようなことがないと戻らない。特に優秀な人ほど戻らないと思う。それから坂井市、福井市に流出するのは、便利さがあると思う。中山間地域に住んでいると交通の便がない、買い物もいけないとなるとずっと住んでいる高齢者も出たいという人もいる。身近なところを改善していかないといけないと思う。

北島議員　　周囲の人でも雪かき、草刈りが面倒なので、マンションに住みたいという人もいる。そうすると、街に住みたいとなる。

委員長　　検討課題の一つだと思うが、コンパクトシティを推奨して、利便性が高い残れる場所をこちらで考えると希望が持てるのではないかと思う。

野沢議員　　直近では学校の統廃合問題がある。教育を考えると、あわら市はどちらの方向でいくのが大事な選択の一つになる。こういう理由であわら市は少人数学校でいこうとか、特別な教育を推進していこうとするのか、統廃合するのか、その土台となるような話し合いができるといいかなと思う。

委員長　　教育でいうと魅力化して外から呼び込む自治体もある。それを我々も取り入れるのかどうするか、は考えたほうが良い。

南議員　　優秀な人材を残すには、地元の大学に頑張ってもらわないといけない。地元の大学にいとこに残る定着率は高い。でも教育委員会は学歴を重視している。高校が福井の産業を見てくれなかったら出ていった子は戻ってこない。県に普通科高校にも福井の産業の技術を1年に1回、現場を見る、現場の声を聞く活動を取り入れてほしいといっている。知事や教育長も福井に残るといことが優先課題であるはずなので、そこをどう答えてくれるか。全県下的にも福井の産業をとらえてもらうということをやっていないと大変だと思っている。

委員長　　今後の進め方として、アイデアを形にしていきたい。まずはモデルケースを探す。例えば企業誘致でいえば地場産業で成功している田舎のモデルケースをリサーチしてみる。その影響や郷土教育をどうしたらよいか、などを調べてそれを検証してみることもいいのではないかと思っている。

いろいろな課題を出した中には、今まで言ってもできないこともあるし、財政面での課題もあるので、その中でなにに投資すべきかという観点が必要と考える。議論としては稼ぐものは稼ごうかという議論になってもおかしくない。北島議員が言ったように企業誘致をして法人税を増やすとか企業がある程度投資をしてくれる、例えば住宅に投資をしてくれるとか、というようにお金の出所も含めて考え、それにより住環境が改善したりすると、全部市がやることより負担が少ないということも含めて話していかなければならないかなと思う。時代に沿ったりモータワークについても検討したらどうか、などいろんな観点から議論できたらよいと思う。

今後の進め方はどうすべきか意見をいただきたい。

北浦議員 市として政策評価などで取り組んでいる状況を聞くことも必要かなと思う。

卯目議員 20～24歳転出の理由。残った人の理由を分析はできないか。本音を聞けるといい。総合的にやっていかないと難しいので対象を絞って追及していくのもいい。

関山議員 企業誘致の現状を知りたい。住むところがないと聞く。住めるところがどれくらいあるか知りたい。例えば100人来るといったときどれくらい実際に住めるのか現状を把握したい。

北島議員 女性活躍する企業があったらよい。今までは土地を用意したので来てくださいというやり方だった。地場産企業でも女性が活躍している企業とか、武生の村田などは外国人が増えている。鯖江は眼鏡もあるからいいのかも。ふるさと教育を続けると（人は）帰ってこなくても、ふるさと教育はふるさと納税で返ってくるかもしれない。ふるさと納税がいつまで続くかが問題だが。

委員長 ふるさと教育の出口がふるさと納税ではないか、ということも議論としてはあるような気がする。

流れとしては、今出てきたことを調べていきたい。少なくとも月1回はこの委員会を開催したい。

例えば1つのトピックスについては調べていただく。やれる人はもっと調べていただきそれを共有する。各自調べていただき、随時ラインワークスで共有できるとよい。

南議員 自分なりに考えたテーマの課題について調べていくということでよいのか。

人口対策チームとの交流はできないか。

委員長 検討する。これを調べるとのことについては、言っていただきたい

北浦議員 任期は2年だが、いつごろまでにどうするのか、結論はどう出すのか。

委員長

個人的には、年内にタイムスケジュールが出せればと考えている。

テーマが広いので、考える時間が必要と考えている。提言にまでもっていきたいと思っている。